

令和4年度事業報告書

【本 部】

令和4年度もコロナ禍の中でどのような保育を行っていくのか、また、保護者とのコミュニケーションをどうして構築していくのかが大きな問題でした。さくらんぼでは感染者の状況によって変わるリスクレベルを見ながら、保護者の保育室への入室禁止や廊下での受け渡しなど、色々な対策を考えながら感染防止対策を行ってきました。

異年齢保育も9年目をむかえ、毎日の保育もずいぶん充実してきました。また、暮らしの保育を理解してもらうために、コロナ禍の中でも保護者の保育参加は受け入れました。給食は保護者への試食は実施しませんでした。保育参加のアンケートでも保護者のくらしの保育への理解も深まっていることがわかりました。また、毎年実施している保護者アンケート①保育について、②行事について、③職員について（園長含む）、④給食について、⑤総合満足度、の5項目について、5段階評価と文章で実施しました。その結果、保護者のさくらんぼの保育に対する理解や評価がさらに深まっていることがわかりました。総合満足度で98.8%の保護者が満足・やや満足という結果で、不満足はゼロでした。次年度も保護者に保育内容や園に対してのアンケートを実施して、保護者の思いや園への要望などを集約して更により良い関係を作っていきたいと思います。

4月当初は、定員130名に対して152人からスタートし、毎月兄弟関係が入園し、年度末には159人の子ども達が在籍して、月平均で156名の園児数でした。

2人の保育士が産休育休を取得しましたが、それを見越して職員配置を多めにしていましたので、運営に支障なく保育が出来ました。昨年に続き、3月に2名の常勤的非常勤職員が結婚と出産で退職しました。それで、5年ぶりに3人の保育士を採用しました。

昨年の10月から40周年に向けての準備を始め、1月に卒園児保護者も入れての実行委員会を立ち上げ、記念誌、大同窓会、祝賀会の3チームに分け、8月の記念行事に向けて準備を進めています。

法人として児童福祉の立場から「子どもの最善の利益は何か」を追求しながら時代の推移を見据えた運営をおこないました。法人の方針としては、地域の方々へ恩返しをしたいという思いから、下記の3点を念頭に運営して来ました。

- (1) 保育内容の充実と、地域と共に歩む保育の実践
- (2) 子どもの発達状況について、保護者との連携を密にし、乳幼児の健全な発達を図る
- (3) 職員資質の一層の向上

1. 理事会の開催（コロナも少し落ち着いてきたので対面での開催となりました）

- ・令和4年5月31日(火)
内部監査・監事監査報告、本部及び施設決算書審議、事業報告書審議、補正予算、処遇改善Ⅲの支給変更、R4年度第一次補正予算、定時評議員会、その他（宮里理事提案、40周年記念事業）
- ・令和4年12月27日(火)
内部監査報告、補正予算、指導監査結果、園長の定年延長、副園長設置、給与改定、就業規則変更、40周年記念事業について、その他
- ・令和5年3月24日（金）
第2次補正予算、事業計画案審議、予算案審議、就業規則変更、マイクロバス駐車場契約、積立定期、評議員会開催

【施設】

異年齢保育を始めて9年になり、くらしの保育への保護者の理解が深まってきました。それに伴い入園希望者も多く、定員130名に対して4月から152名でスタートしました。どこの保育園も0歳児が少ないようですが、4月は14名でスタートし年度末には24名になりました。入園希望の99%は在・卒園児保護者や友人知人の皆さんの紹介で入園されていて有難いことです。また、去年今年と4年ぶりに常勤的非常勤保育士4名の結婚・出産による退職がありましたので、年度末に3名の保育士を採用しました。一人は卒園児で公立の園で1年経験し、後の2人は新卒です。この保育士不足の中、実習生も20人くらい来てその中から希望者を募り採用試験をして決定しました。

全国的に異年齢保育をする保育園が増えてきており、ここ数年北海道はじめ全国から見学や保育実習に来られています。受け入れも大変ですがそのことによって保育が充実し、子どもたちの幸せに繋がるならば良いと思って受け入れています。

コロナも落ち着いてきたので、6年制の集まりや20歳のつどい等を実施しました。その時にピザを焼いたりバーベキューなどでもてなしたので、子どもたちも大喜びでした。

1. 保育内容の充実

例年、熊本市や県、保育園連盟主催の研修会に参加しました。また、オンラインで行われた全国保育問題研究会や全国保育団体合同研究集会、九州保育団体合同集会福岡集会等には提案し、毎月1回さくらんぼ保育園でおこなわれている異年齢研究会や熊本保育問題研究会、音楽教育の会などには積極的に参加して学んできました。

2. 入所児童の保育ニーズの多様化への対応

- ① 障がい児保育：3名の障がい児を受け入れました。
- ② 延長保育：1時間の延長保育をおこなっており、1年間で延べ2,200人が利用しました。
- ③ 自主的一時保育：希望者はありましたが、在園児が増えてきているため受け入れられませんでした。

3. 家庭と保育園の連携強化

- ① 毎週1回発行のおうちだよりにおいて、保育内容や子どもの様子等を知らせて、少しでも園への理解と子育て観を共有できるようにしました。
- ② コロナも落ち着いてきたので規模を縮小して、見知り遠足、クラス懇談会、わくわくデー、保育参加などは対面で行いました。
- ③ 保護者会と保育園の共催の秋まつりバザーは、2年ぶりに開催されましたが、食に関してはキッチンカーや保護者関係のお店に販売していただきました。しかし、久しぶりの開催だったので保護者の皆さんも子どもたちも大喜びでした。
ダディダ（おやじの会）では、3月に築山の修理と滑り台の板を張替え、その後バーベキューで盛り上がりました。

4. 給食運営

平成22年度より、五分づき米で和食を中心にして、野菜も減農薬や無農薬で旬のもの、食材も無添加のもので、化学調味料は一切使用していません。さくらんぼ独自の献立で和食を基本とし、栄養のバランスを考えた上で、園児の嗜好にも配慮して給食を提供しています。特におうち毎に育てた野菜を使つてのクッキングに取り組みました。おかげで子ども達の食への関心も高まり、好き嫌いの減少にも繋がっているように思います。

サンマが手に入らないので、友人の保育士が宮崎から採れたてのいわしを400匹くらい持ってきてく

れたので、4年ぶりくらいに第二園庭で焼いて、子どもたちのおやつにたべました。その他焼きもパーティー、ホットケーキパーティー、ピザパーティー、ピクニック弁当など楽しい企画をたくさん行い、子ども達に食べることの楽しさを伝えています。

近年はアトピーやアレルギーの子ども達が増えてきたので、保護者と栄養士とおうち職員とで話し合う機会を設け、除去食等も積極的に取り組んでいます。また、毎日の献立の内容を保護者に知らせるために展示食を行い、全保護者を対象に試食会も行っており、給食アンケートでは100%の保護者が満足（やや満足含む）という結果が出ています。

5. 安全管理

登降園時の交通安全、災害訓練（消火・避難）、不審者に対する訓練、散歩先での交通安全を実施しました。

6. 保健衛生管理

ここ3年はコロナに感染しないように、手洗いうがいの実施などを重点的に行ってきました。児童及び職員の健康診断、歯科検診などによる健康管理に配慮し、食中毒の予防対策として手洗いうがいを励行しました。調理においては、食品衛生法に基づく指導基準を守り、食中毒を起こさないために衛生面に注意しました。H31年度からはハサップに基づく衛生管理を行うために、専門業者と契約し衛生管理をさらに充実させます。特に今年は、コロナ感染予防のため、手洗いうがいの実施、手指の殺菌などは重点的に実施しました。

7. 地域との連携

例年、泉ヶ丘校区の子育てネットワークの代表を仰せつかり、夏休みの園庭開放や子育てサークルへのホール無償貸与、子育て講演会などもおこなっておりますが、ここ3年はコロナ感染防止のため、取り組みができませんでした。

【主な取り組み】

- ・おいで一緒にあそぼう会（8月）：地域の親子を招待して園児と一緒にリズムやゲームを楽しみました。
- ・お帰りのさい卒園児（8月）：卒園した1年生を呼んで里帰り体験
- ・親子でみんなでふれあい会（10月）：未就園児を招待して、運動遊びや親子でふれあい遊びをしています。
- ・さくらんぼ秋まつり（11月）：卒園児や未就園児、地域の方々を案内して飲食バザーや園児の出し物などをして交流。
- ・毎年6年生になった卒園児と保護者、それに職員も参加してクラス会をしています。